

報恩講

十一月十八日
(土)

午前、午後の法要・お説教。夕刻か

神戸別院を訪ねて

北村幸雄

昨年からは楽しみにして、呼ばれた本願寺神戸別院に参拝、その後有馬温泉に一泊という梅鶯仙壮研修旅行に行つてまいりました。

杉本輪番さまと



別院に到着して、その外観を仰ぎ見て「まさにモダン寺」とまずは納得。日本のお寺らしからぬお寺と言え、以前参拝した築地本願寺を思い出すのです。

が、ここ神戸別院もまた同様に、映し出された建物でした。中に入り、お内陣を拝見すると、ここにもまた日本のお寺らしからぬデザインで、その斬新さ、綺麗さ、色彩の鮮やかさ、に感動です。正信偈をお勤めした住職を導師として、さきから神戸別院の概略をお話している顔、その後別院に勤務されている人から詳細なご説明をいただきました。あた、お内陣は昭和5年旧本堂造営に瑞ご門主の指導によって設計されたもので、太谷探検隊で得られたインンド古代様式等の知識をふんだんに取り入れ、お釈迦様の一生を象徴する様々な場面や仏具よりなりました。また、淡路神戸大震災の折には、いち早く新築復興し、神戸復興のシンボルとして市からライトアップを要請され、今も続けておられる事なども説明頂きました。個人的な事ですが、山月さんは坂田F

山月融心氏による説明



このOBで、分かった時に、はびつくり。梅鶯仙壮がと、りもつ縁です。ね。サッカーを教えた子共達が成長し、このように活躍している姿を見ると、なんだかうれしくなります。その後は、神戸港のランチクルーズや中華街を楽しんだ後、有馬温泉のエクシブ有馬に宿泊です。外湯「銀の湯」や内湯でゆっくりと一日の疲れを取り、夜は中華料理を美味しくいただき、翌日朝食はアメリカンスタイル、昼は桜正宗記念館で和食と国際色豊かな食事也十分楽しませていただきました。別院のお世話を頂いた長野ご住職様、魅力的な計画を立てまたエクスィブをお世話頂いた田中薫様、世話方としてご苦労頂いた森会長様、北村正隆会計様、ご一緒頂いた皆様ありがとうございました。来年も健康でいて、仏壮研修旅行に参加できます事を楽しみにしております。合掌

本堂（後列右端が筆者）



題材法話

浄土真宗のみ教え⑧ 「限りなき光と寿の仏」

＊拝読「浄土真宗のみ教え」の12頁をお読み下さい。
前号からのつづき

真実の救いとは「いつでも、どこでも」であって、時間と空間（場所）に限り（制限）があつてはなりません。

阿彌陀とは、「アミターバ」「アミターユス」とい

うサンスクリット語で、「無量光（どこでも）」

「無量寿（いつでも）」の

は「たらきであり、「智慧」と

あり「慈悲」のはたらきでも

あり「南無」とはサンスク

リット語の「ナモス」とい

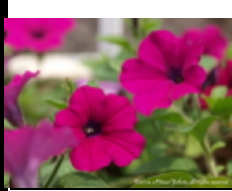
ベてを任せします」とい

う意味ですから、「南無阿

弥陀仏」とは、「阿彌陀様

のはたらきに、すべての受

任せします」との受けとめ



十方微塵世界の念仏の衆生をみそなはし
撰取してすてざれば
阿彌陀となづけたてまつ

○十方の衆生とは

南北に東南、東北等の間を

含めた八方、それに上方、

下方を加えて十方と呼び、

すべての方向を指します。

界とはあらゆる十方微塵世

ぽけな世界でもということ

です。そのどんな世界におい

ても、念仏を悦ぶ衆生であ

れば、必ず阿彌陀様は見て

いて下さるといいます。

ここは、「深く味わいた

とは、「あらゆる世界の衆

生」とは、この私が間違い

なく含まれていてというこ

陀様は「撰取不捨」と誓つて下さいます。親鸞聖人は和讃三行目の「撰取してすてざれば」とい部分に注釈（「左訓」といいます）を付けておられま

ようとしても、今度親は二度と離すことはなく事なきを得ました。私の生き様をよくよく振り返れば、煩惱の世界に迷い、阿彌陀様の救いの手から逃げ惑っているような生活です。それはまるで、新幹線のホームから転落する危険も分からずに、親の手から逃げ回る小さな子どもそのもの

例會住職法話より

